

2026年3月10日

各位

株式会社三井住友銀行

株式会社はくばくに「ESG/SDGs 推進分析シンジケーション」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留 朗裕）は、株式会社はくばく（代表取締役社長：長澤 重俊）に対し、「ESG/SDGs 推進分析シンジケーション」を実施いたしました。

「ESG/SDGs 推進分析シンジケーション」は、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：内川 淳）が作成した独自の分析基準に基づき企業の ESG（※1）側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）（※2）達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同いただいた金融機関によって組成されるシンジケート・ローンとなります。

今回対象となりました株式会社はくばくの取組みは、環境側面（E）、社会側面（S）及びガバナンス側面（G）の各項目を通じたサステナビリティに向けた企業経営において、一定の ESG 及び SDGs 達成に向けた取組みおよび情報開示を実施されていると判断されました。

特に、ESG 及び SDGs 達成に向けた取組みでは、以下の内容が評価されました。

E：Scope1, 2, 3 の CO2 排出量や水使用量、廃棄物排出量等の事業活動に伴う環境負荷の実績値を関係会社も含めて把握している。また、再生可能エネルギーの利用推進や廃棄物排出量の削減の数値目標を設定し、環境負荷削減に向けた活動を推進していること。

S：製品の安定供給に向けて、リスク管理委員会等の定期的な開催のほか、原材料調達先の分散化、非常時・緊急時に備えた訓練等の取組みを実施している。また、柔軟な勤務形態を認める人事制度の整備や時間外労働削減のための目標設定等、従業員の多様な働き方へのニーズに応える取組みを強化していること。

G：企業理念において、「穀物の感動的価値を創造し、人々の健康と豊かな食生活を実現する」という方針を明文化するとともに、「はくばく コンプライアンス宣言」として、事業活動を行う上で役員が遵守すべき規範・方針を開示するなど、コンプライアンスや社会的責任に関する組織としての取組み姿勢を明確にしていること。

SDGs：自社ホームページにおいて、事業活動を通じた SDGs の取組みを開示している。

株式会社三井住友銀行では、お客さまのサステナビリティ経営に向けたソリューションの提供や対話を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

〈株式会社はくばくの ESG/SDGs への取組事例〉

「小瀬エコスタジアムプロジェクト」を応援



ヴァンフォーレ甲府のホームゲームにリユースカップを導入している NPO 法人「スペースふう」の取り組みに賛同し、支援しています。リユース食器とは、地球温暖化防止推進を目的に、使い捨てではなく何度でも洗って使える食器のこと。イベントなどでゴミを出さず、環境負荷を低減する、地球に優しい活動です。

定期的な産地訪問



栽培履歴調査結果や残留農薬検査結果だけでなく、国内外を問わず安全・安心な原料調達を図るため産地を訪問し、生産者・流通の現状を把握すると共に「お客様により安全・安心をお約束」できるよう栽培、収穫、流通上問題が無いよう努めております。

ライフイベントやライフスタイルに合わせた働き方の実現



はくばくではライフイベントやライフスタイルの変化に応じて、さまざまな働き方を選択できます。育児休業や介護休暇、時短勤務だけではなく、在宅勤務制度、スライドワーク制度も活用することで、よりいっそう働き方の選択肢を増やしています。

■山梨えるみん認定

女性が活躍できる職場環境づくりを積極的に行い、女性活躍推進に取り組んでいる企業に認定されました。

■山梨県「YAMANASHI ワーキングスタイルアワード優秀賞」/日本創生のための将来世代応援知事同盟「将来世代応援企業賞」受賞

働きやすい職場環境づくりや育児・介護等に関する支援、多様な人材の活用などを積極的に進めている企業に選ばれました。



SDGs 活動の社内浸透と継続教育



はくばくでは SDGs 活動を経営に組み込むことを実現するために継続的に研修を実施しています。研修では「自分事化」することを目的として、自身による学びや考えをアウトプットしたり、他メンバーの考えをインプットしたり、双方向で意見を出し合い、より深い議論を展開しています。また、SDGs に取り組むことがそのまま会社の業績に反映することを学び、理解することで、より「自分事化」を促しています。2030 年がゴールではなく、事業のサステナビリティを高める活動として、社内浸透活動を継続していきます。

使用エネルギー削減に向けた取り組み



近年、消費者の健康意識の高まりや巣ごもり需要の伸びを受け、もち麦をはじめとする穀物加工品の需要が増加しています。はくばくではこの需要増に対応すべく生産体制の強化を進めていますが、体制強化に伴い、生産活動に使用するエネルギーの増大という新たな課題にも直面しています。このため、はくばくでは水力、太陽光により、山梨県内で発電されたクリーンな電気を使用しての生産活動推進、各工場でのエネルギー（電気、エア、蒸気）の見える化などの活動を通じ、全社挙げてのエネルギー削減に取り組んでいます。また、本社社屋や工場屋上へメガソーラーを設置し、クリーンエネルギーの創出にも取り組んでいます。

廃棄物の削減と再資源化



はくばくで主に扱う製品は、穀物を精製したり粉砕したりしてできあがる「穀物加工品」です。工場での生産活動に伴い、糠（ぬか）や精選時に取り除かれた残渣などの副産物が発生しますが、これらは、飼料や菌床などに再利用しています。さらに糠については、食用原料としての用途開発を進め、クッキーやシリアルなどの製品化につなげてきました。また、もち麦フレークのようなホールグレイン（全粒穀物）を原料とした商品開発を進めたり、加工条件の見直しによる製品歩留まりの向上に取り組んだりすることにより、廃棄に回される部分を極力減らすような試みも進めています。

<ご参考>

※1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことで

以 上

【本件に関するお問い合わせ先】

法人戦略部 サステナブルソリューション室

TEL : 03-4333-6965

このお知らせは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。